

## 平成 26 年度研究功労賞推薦書

受賞対象者 三原 忠紘 先生

三原 忠紘 先生は、1966 年に鹿児島大学医学部を卒業され、郷里の島根県立中央病院でインターンをされた後、1967 年に鹿児島大学医学部神経精神科に入局されたが、1970 年 1 月に同教室の助教授であった朝倉哲彦先生を慕って東京女子医科大学脳神経外科（主任教授喜多村孝一先生）に入局し、機能的脳神経外科を学んだ。1972 年頃からてんかん原性病変の脳波を研究し、定位脳手術や側頭葉切除術などのてんかんの外科治療を開始されたことがこの道に入られたきっかけである。

1975 年 7 月 鹿児島大学医学部脳神経外科（主任教授朝倉哲彦先生）の開講に伴って講師に就任、後に助教授となられた。この間、Juhn A Wada 先生のところへ短期留学された。帰国後にはわが国に初めて導入された CT を用いた研究「脳腫瘍の CT 診断における EMI ナンバーのコンピュータ解析」で学位を取得された。

1982 年 4 月、国立療養所静岡東病院（現・静岡てんかん・神経医療センター）に赴任し、気脳写の装置（Mimer-III）や定位脳手術装置（Toddwell）、手術顕微鏡などの選定・導入や手術室の改修、外科看護体制の構築などに 1 年間を費やしたそうである。学園紛争時代に全否定されたてんかんの外科治療の立て直しをめざして、てんかん外科治療可能な施設を一から構築するという想像を絶するご苦労があったものと考え。その後、てんかん外科に専念できたことは、先生の医師としての人生を大きく彩ることになるが、日本のてんかん外科を再興し発展させ、さらに多くのてんかん外科医を育てた業績の積み重ねは、先生の背中を追い続けた私たち後輩のてんかん外科医にとっては常に大きな目標であった。学会などでは先生からてんかん外科の基本を教えていただき、てんかん外科の正道を常に導かれ牽引された先生の功績は非常に大きいと考えている。

2006 年 3 月に定年退任されるまでの間、ほとんどのてんかん外科の手術を手がけられたが、その変遷をたどってみる。側頭葉てんかんの手術から始めて、海馬硬化による症例に対しては頭蓋内脳波を全例に行い、その上で前部側頭葉切除術を行った。側頭葉外の手術も 1987 年から開始した。1990 年からは選択的扁桃体海馬切除術を優位側の症例に対して用い、非優位側の症例には前部側頭

葉切除術を行うという使い分けをするようになった。1994年には第1例目の脳梁離断術を行った。生涯のてんかん外科手術症例数は約750例であるが、6例の脳梁離断術以外は全て切除術という三原先生らしい手術内容である。たくさんの臨床研究論文があり、それは日本のてんかん外科再興の歴史を物語るものである。

学会活動として、1995年に第18回日本てんかん外科学会会長をお努めになり、1997年から2009年まで日本てんかん学会理事をお努めになり、この間8年間事務担当理事として学会運営にご尽力され、専門医制度や地方会の設立にも多大な貢献をされた。2004年には第38回日本てんかん学会副会長をお努めになった。長い間、日本てんかん学会と日本てんかん外科学会で活躍され指導的役割を果たされたご功績は多大で、後に両学会の名誉会員となられている。

多数の論文や分担執筆があるが、退任後に「脳の働きをうかがい知る一外科てんかん学入門」(2008年)、「てんかんの手術の正しい理解」(2013年)を上梓され、いまだにてんかん外科に対する情熱は盛んであり、多くの先生から慕われている。

日本のてんかん外科を再興され主導されてこられた先生のご業績とご功績に敬意と感謝を表し、研究功労賞に推薦させていただきます。

国立病院機構西新潟中央病院  
院長 亀山 茂樹